



気象変化に対応する米づくりへ

Part1 現状把握 気象変化と今年産の総評



管内総評

令和7年産米の地場検査は、品種問わず総じて品質不良が目立ちました。

各地域・品種ともに乳白・心白・背白粒の被害が多い。高温登熟性がやや強い「みづかがみ」においても乳白・心白粒が多く見られました。カメムシ類の発生状況は、前年の約2倍。高温気象下で発生密度が下がらず、カメムシ粒の被害が多発しました。特に、中晩生品種においては、被害が著しく、地球沸騰化の時代とも言われ、来年以降も同様の状況が発生することは否定できません。

気象状況の振り返り

今年産の6月から8月の夏期の気候は、前年に比べ、猛暑日・夏日の日数は大きく増加しています。また、最高気温も高く推移し、猛暑日・連続猛暑日が過去最高と記録的な高温となりました。

令和7産米の品質への影響は、7月下旬のコシヒカリ出穂・開花期の高温の影響で、前年と同様に不稔もみの発生がみられました。また、8月以降の高温の影響で、登熟初中期に影響される乳白粒の発生や、登熟後期に影響される背白・基部未熟粒の発生要因となりました。

夏 6~8月		滋賀県・彦根
		日最高気温36°C以上【猛暑日】の日数 (平年差)
		25 (+20.5)
		日最低気温25°C以上の日数 (平年差)
		54 (+37.2)



次回は今年産の品質課題と重点対策について連載します。

pick up
営農指導活動

水田野菜の推進品目 加工業務用タマネギの苗をお届け

特産振興課は11月4日から、管内の農業者に向けて加工業務用タマネギの苗の配布を始めました。今年の提供箱数は8,894箱です。

今年は9月15日から種まきを始め、残暑の影響を抑えるため、遮光ネットを使用するなどの暑さ対策を行いながら管理しました。順調に生育し、加工業務用の生産者をはじめ、組合員が購入できる苗や、県内3JAへの供給分も確保することができました。



特産振興課
水森 寛太
(園芸振興担当)

